

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.95 (秋号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

2024年10月5日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

2024年8月27日

高山市長 田中 明 様

要望書

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会
日本野鳥の会岐阜飛騨ブロック
飛騨高山ふるさとを歩こう会
飛騨びと楽校
ギフチョウの翔ぶ里山の自然を考える会
飛騨植物研究会

会長 飯田 洋
代表 直井清正
会長 小野木三郎
代表 牛澤 功
代表 鈴木俊文
代表 北村光男

サクラソウ自生地保護区（高山市指定）について

市内松本町地内にあるサクラソウ自生地は高山市の保護区に指定されており、県内で唯一残された貴重な自生地であります。またサクラソウは全国的にも減少が危惧されている種でもあり、岐阜県では絶滅危惧種Ⅰ類に、また環境省では準絶滅危惧種に分類されています。またこの自生地には準絶滅危惧種のギフチョウの食草であるカンアオイも移植されていて、サクラソウの咲く時期にはギフチョウの舞う姿も観察できます。

ところが最近自生地の土地所有者から、この土地を手放したいとの話を聞き及び、大変憂慮しています。

今年5月には高山市都市計画課により城山公園に、「岩手県産の野生種のサクラソウ」が3箇所に約100株植えられました。あまり芳しい状況ではありません。サクラソウは移植が大変難しい種で、現に清見町にあった自生地のサクラソウが中部自動車道建設工事のために過去に移植されていますが、いずれも失敗、消失しています。生態系及び自然の生息地を保全し、存続可能な種の個体群を自然の生息環境において維持すること（生息域内保全）が第一で、生息域外保全（移植）は最後の手段として考えるべきです。

高山市は生物多様性国家戦略を踏まえ、全国に先駆けいち早く「生物多様性ひだたかやま戦略」あるいは「生物多様性ひだたかやま戦略行動計画」を打ち立てられました。この

戦略、行動計画をうち立てた自治体の責務として、この「※サクラソウ自生地を高山市で購入し、保護・管理体制を確立していくこと」こそが、自然豊かな国際観光都市として最もふさわしい行動であると私たちは確信しています。

高山市にとってメリットのある土地しか、購入しないという話も聞いていますが、「県内で唯一残された貴重な自生地」の購入には、金額などには換算できない貴重なメリットがあるのではないのでしょうか。

全国に先駆け生物多様性の重要性謳いあげた自治体として、是非ともこのサクラソウの自生地を購入されることを、私たちは要望いたします。

サクラソウが絶滅の可能性があるのは、自生地の開発や乾燥化、(温暖化)が原因となっていることから、植生が認められる自生地だけでなく、そこを取り巻く集水域全体、つまり里山の保全が必要ということで、一体として保護保全すべきです。

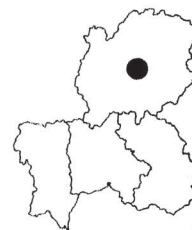
従って、地域の実情に応じて森林整備及びその促進に関する事業を幅広く弾力的に実施するための財源として活用できる、森林環境譲与税の活用を併せて提案します。

※行動計画書の 16 ページには市の責務として

「2 市内に分布する希少動植物の生息・生育地の保護」として、「サクラソウ等の絶滅危惧種の保護などについて国、県と連携を図ります。」と明記してある。

(4) サクラソウ *Primula sieboldii* E. Morren

湿った草原などに生える多年草。葉は柔らかく表面に皺があり、卵状長楕円形、長さ 2-7cm、縁に不揃いの重歯牙があり、基部は心形で、長さ (2-)5-10cm の葉柄がある。花期は 4-5 月。花茎は高さ 15-40cm、先端にできる散形花序に 5-15 個の花をつける。花冠は赤紫色で径 2-3cm。北海道南部、本州、九州に分布する。岐阜県ではかつては自生していたといわれるが現在確認されている 明らかな自生地は県北に 1 か所のみである。



岐阜県植物誌 (2019) 抜粋

保護地区

番号	所在地	面積	所有者	記事
1	松本町	733㎡		サクラソウ群生地
	サクラソウ群生地 サクラソウ科	松本町ヤマズミの山林約700㎡ (保護地区指定) 外に前原町に1ヶ所僅かに自生する		全国的に開発のため絶滅に近く、埼玉県田島ゲ原のものは国の特別記念物 <u>高山市のものは東海唯一の群生地と考えられる</u>

高山の植物 (S62) 抜粋

9月18日に上記要望書に基づき市長と話し合いをしてきました。飯田会長をはじめ当会のメンバーや小野木さんなどが出席して下さいました。市や県の天然記念物に指定すべきでないか、あるいは自生地を市民の憩いの場として整備すれば、などを提案しましたが、残念ながら市長からは色よい返事は聞かれませんでした。いずれにしろ、地権者の意向も有り結論が簡単に出るとは思えませんが粘り強く運動を継続していかねばなりません。また、地域の方々の理解・協力も必要と考えています。

乗鞍岳自然観察会

井上雅子さんの絵と文



花びらを広げ 受粉を待つ花
 咲き終わった花
 つぼみを しっかり守る花
 地中には ひろがり根
 時を待つ 数知れず種
 これ以上 何を望むことがあるか
 数十センチ四方の小さな世界に
 「吾唯知足」の おもいを
 強くしました。

乗鞍岳 雪に隠れて ^{あそ}風荒ぶ

宮地真美子（恵那市）

6月に長野県の大町山岳博物館で初めて雷鳥に出会いました。そして「いつかは自然の中で暮らしている姿も見れたらいいな〜、と思っていたところタイミング良く今回の観察会を知り参加させていただきました。

当日、風はかなり強くはありましたが、



ホシガラス

雨が降ることもなく、お目当ての雷鳥にも出会え、カヤクグリ・ホシガラスなど以前から会いたかった高山の野鳥にも会えて大満足でした。

雷鳥やホシガラスの生態の説明はとても興味深く、また日常では見るのできない可愛らしい山野草も沢山咲いていて、植物に詳しい皆さんのお話もとても楽しくいい勉強になりました。

またこのような観察会があれば参加したり、できることなら自然を守る活動などに



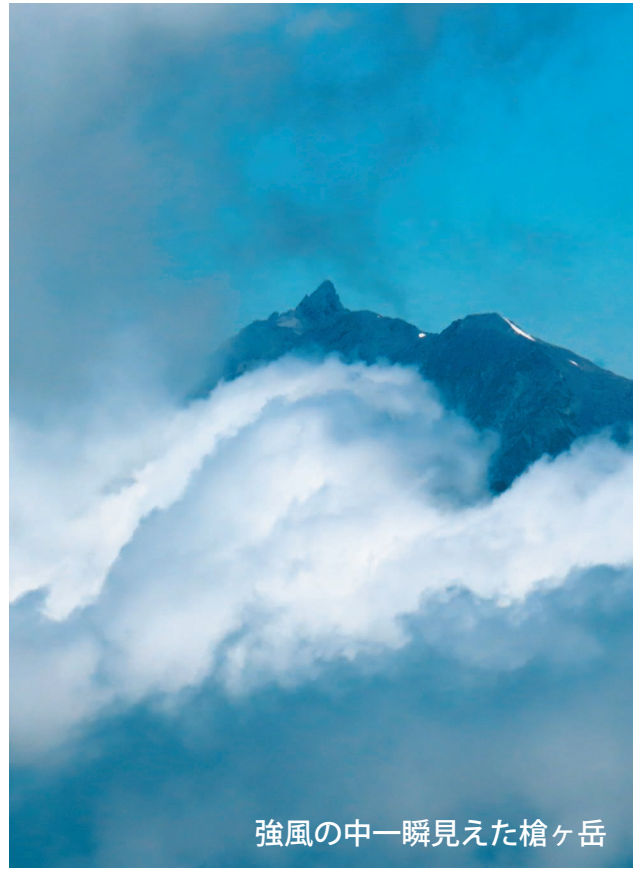
砂浴び中のライチョウ

参加していきたいと思いました。

皆さんどうもありがとうございました



八重咲きのミヤマキンバイ



強風の中一瞬見えた槍ヶ岳

水生昆虫調査

松崎 茂

水生昆虫調査を今年も行った。7月28日の日曜日、参加者は子どもを含め15名。清見町ウッドフォーラムの駐車場に集まった皆さんの足下は、川に入る準備に怠り無い。今回は強力な助っ人として、飛騨高山高校の理科教諭の鈴木啓久先生が参加して下さいました。

挨拶もそこそこに早速ウッドフォーラム裏の川上川へ。梅雨明け後間がないためか水位は若干高めだが問題なく川に入れた。



今回わかった事の一つに、水生昆虫が水深の浅い水辺に意外と多かったことだ。流速や水温の関係だろうか。

約1時間程かけて採取した水生昆虫などをバットやアクリル容器に入れ、日陰へ移動。子ども達は自分で捕まえたオタマジャクシやカエルも容器や虫かごに入れて持ってきた。

早速分類作業を始める。先ず子ども達にはよく似た形のものを集めて、別々の容器に分ける作業をしてもらう。ワイワイガヤガヤ、ここでも大騒ぎ。おおかた仕分けがすんだ段階で、鈴木先生による本格的な種



の同定と主な水生昆虫の簡単な生態のお話をしていただいた。

また野鳥の会の直井さんが、「カワガラスは水に潜って水生昆虫を食べているのだが、近年市内河川のカワガラスの減少が気になっている。川の中の実態はどうなのかと疑問を持った事が調査を始めたきっかけで、この調査を毎年続ける事で多くの方々に河川の実態を知ってもらおう事も大事だと思っている」と、水生昆虫の調査の意義をお話しされた。

例えば、以前は夜のコンビニの店先の照

明に集まってくる昆虫の数が多かったが、最近めっきり減っている。こんなことも水生昆虫に影響が有るのかも知れない。農薬や除草剤の使用も影響有るだろう。川の中では何が起きているのか・・・いずれにしても川に入って見てみなければ何も解らない。自分の目で確かめ、記録を取る事で見えてくるものが有るだろう、そんな思いでこれからもこの調査を継続していきたい。



川上川水生昆虫調査結果

(清見町ウッドフォーラム裏・7月28日)

採取された水生昆虫 他

※トンボ目

- クロサナエ
- コオニヤンマ
- ハグロトンボ

※カゲロウ目

- エルモンヒラタカゲロウ
- モンカゲロウ
- マダラカゲロウ
- タニガワカゲロウ
- ヒラタカゲロウ sp.

※カワゲラ目

- オオヤマカワゲラ
- コガタフタツメカワゲラ

※トビケラ目

- ヒゲナガカワトビケラ
- ムナグロナガレトビケラ
- シマトビケラ sp.
- トビイロトビケラ

※その他

- クロスジヘビトンボ
- マメゲンゴロウ
- カジカガエルの卵
- アジメドジョウ
- ウグイの稚魚
- ヨシノボリ sp.
- オタマジャクシ sp.
- カエル sp.



旅する蝶 アサギマダラのマーキング会



加藤恵子

アサギマダラのマーキングに挑戦しようの企画に6歳の孫と初めて参加しました。

旧チャオスキー場はさぞかし涼しいだろうとの期待に反し太陽が近いせいか、ここも猛暑続きの下界と変わらず暑かった。指導して下さる住さんが前日に捕獲され、良い子にしている（死んだふりをしているとのこと）マダラちゃんにマーキング初挑戦の数人が油性ペンで放蝶した場所（チャオ）・日付・名前を記入。私が預かったのは女の子。全てのことが初めて、ペンで翅にこんなにハッキリものかと感心する事。

70歳を超えての初体験にワクワクドキドキする。無事に何千キロも旅して欲しいの願いを込め手からそっと放す。フワ〜リ、フワフワ、ヒラヒラ旅立っていく。

頂いた資料には台湾、中国、香港まで2000キロ以上移動した例も……。

聞けば寿命はたったの4・5ヶ月。いくら習性とはいえ何も大変な思いをして移動



花弁が7枚のアケボノソウ



しなくてもこの辺りで存分に蜜を吸い。一生を終えれば良いのにと勝手に思ってしまふ。

連日の暑さにヘトヘト気味の私は自然界の「いきもの」のたくましさで脱帽と同時に、もっとアサギマダラの事を知りたいと思った体験でした。ありがとうございました。

9/16 敬老の日に

平松清子（埼玉県）

岐阜のお友達からアサギマダラのマーキングの話聞いていました。とっても興味があつたので、お友達にお願いをして初めて参加させて頂きました。

山梨から3時間半かけて道の駅ひだ朝日村に到着。そこから、車に乗せて頂きました。

アサギマダラを網で捕まえるシミュレーションを家でして自信満々だったのに、1羽も捕まえる事は出来ませんでした。最後に黄色い蝶を捕まえることが出来ました。

私の仕事先の長野県でもアサギマダラの数が少なかったです。ここでも、アサギマダラの数今年少ないとの事。そんな中



で、前日アサギマダラを捕まえて下さって、捕まえられなかった私は、そのアサギマダラに初めてマーキングをする事が出来ました。虫籠に入っていると思ったら、紙の封筒らしきものの中に。死んだふりが上手とは知りませんでした。

マーキングする時は、凄く緊張しました。文字を書く時に強く書いて羽に穴が開いたらどうしようとか。息を止めて、そと、優しく文字を書いて、緊張のあまり少し疲



れました。

今回、参加してびっくりさした事がありました。アサギマダラが死んだふりみたいな事をするって事。オスメスの区別を実際にみてやっと分かりました。まだ、わからない事があるので、また、来年参加したいと思います。

編集者から

今年も参加された森昌子さんは、平松清子さんを含め数人の方にインタビュー、後日その模様が HitsFM で放送されました。

行事予定

★サクラソウ自生地草刈り

集合日時：10月19日（土） 午前9時

集合場所：下水道センター駐車場（冬頭町）

持ち物：草刈り鎌、雨具、飲み物、軽食

服装等：長靴（トレッキングシューズ）、軍手、帽子、

サクラソウ自生地の手入れを行います。併せて自生地につながる山の一番高い所まで登ります。そこからは上野平の彼方に御嶽山の眺望が望めると思われそうですが、その確認も含めどんな所か見てこようかと思えます。なお、都市計画課を通じ地主の方には承諾を得てあります。

★自然談話室 「身近な鳥の意外な生態」

11月12日（火） 午後7時～

会場：高山市民文化会館

講師：直井清正さん（野鳥の会岐阜・飛騨ブロック）

直井さんは長年傷病鳥の世話をされてこられました。傷病鳥を持ってこられた方と交わされた鳥にまつわる様々なお話を語っていただきます。

★自然談話室「乗鞍岳は生物多様性の”ゆりかご”となりうるか？」

高山トビケラの不思議な生態と遺伝的分化

11月28日(木) 午後7時～

会場：高山市民文化会館

講師：鈴木啓久さん(飛騨高山高校 教諭)

鈴木さんは今夏の水生昆虫調査のお手伝いをして下さいました。信州大学大学院の博士課程で乗鞍岳に棲息する水生昆虫の一種である、サハリントビケラの生活史と遺伝構造を研究されていました。現在は飛騨高山高校で教諭をされています(理科担当)。

※各行事の問い合わせ先：

松崎 (090-4214-5208、ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp)

★チャマダラセセリ生息地の下草刈り

集合日時：11月2日(土) 10:00～15:00

集合場所：高山市高根町日和田耕作地

駐車スペースは10台くらいありますが乗り合わせていただけると有難いです。

持ち物：昼食・お茶等・タオル・着替え・防寒着(朝は寒い)・軍手・帽子・
雨具など

鎌・レイキなどは用意しますが、使い慣れた道具がある方はご持参ください。障害保険を掛けますので参加いただける方は、住所・氏名・生年月日が必要になりますので10月24日までに鈴木俊文さんにお知らせください。

※鈴木俊文さん連絡先； メール：shunkei15yoshikata@blue.palala.or.jp

電話：090-5856-2622、0577-33-1568

なお、10月19日に予定していた清見町でのギフチョウ生息地の下草刈りは都合により中止となりました。

■ 会員を募集しています！ 年会費＝個人2,000円 家族3,000円 団体5,000円
あなたの知人、友人に入会をおすすめください
・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第95号(秋号) 2024年10月5日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町4-218-3 飯田 洋

TEL: 0577-32-7206・FAX: 0577-32-7207

下記URLのページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★<http://iidalaw.net/norikura.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：松崎 茂

E-mail: ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp TEL: 0577-34-4703

表紙写真提供：小池 潜

印刷：山都印刷